

令和4年度 九州歯科大学 模擬講義一覧

	講義内容	講師
	「歯周病は全身に影響する?? 歯医者的重要性!!」	
1	歯周病が全身に影響するとテレビのCMで流れています。本当かどうかをお話します。まずは歯医者はむし歯や入れ歯だけではなく様々な治療を知ってください。	<small>むらおか こうすけ</small> 村岡 宏祐 歯学科 クリニカルクラークシップ開発学分野
	「リスクマネジメントのコミュニケーション」	
2	安心安全な医療には良質なコミュニケーションが必要です。医療者が学ぶコミュニケーションのエラーの仕組みを体験して、日頃何気なく用いている会話の質をあげてみませんか。友だち関係や家族関係を円滑にするヒントにもなります。また、厚生労働省が提唱して九州歯科大学が展開している新しい歯科実習についてもお話ししたいと思います。	<small>このお てつろう</small> 木尾 哲朗 歯学科 総合診療学分野
	「歯の治療 - 現在と未来 -」	
3	歯の治療と聞いて皆さんは何を想像しますか? 本講義では、歯の治療の現在と未来についてお話します。「現在」については顕微鏡を用いた治療や審美治療の話題を、「未来」については歯科医療における再生医療に関する研究を取り上げます。本講義を通して「歯の治療」の姿を皆さんにお伝えしたいと思います。	<small>きたむら ちあき</small> 北村 知昭 歯学科 口腔保存治療学分野
	「10代にも忍び寄る歯周病～あなたのお口は大丈夫?」	
4	歯周病になると、歯肉が赤く腫れたり、口臭がきつくなります。そのまま放置していると、歯が抜けてしまい、食べ物が十分に食べることができなくなってしまう怖い病気です。年齢の高い人の病気というイメージがあるかもしれませんが、実は若い人でも歯周病にかかってしまうのです。歯周病の予防と治療、また、最近わかってきた全身の病気との関係について、わかりやすく説明いたします。	<small>うすい みちひこ</small> 白井 通彦 歯学科 歯周病学分野
	「入れ歯治療の最前線 -えっ、こんなことまでできる? 最新の歯科治療を大公開-」	
5	コンピュータテクノロジーの進歩とともに、今、歯科治療が変わろうとしています。本講義では、歯を失うことはどういうことか、という素朴な疑問の問いかけから始まり、手や足を失った人が義手や義足を使いこなしているのと同じように、歯を失った人は「入れ歯」を手に入れることによって機能回復(リハビリテーション)を行っていることと、その重要性について解説します。さらに、最新の「入れ歯」治療について今話題のインプラント治療も含めて動画や写真などを交えながら判りやすく説明します。	<small>ほそかわ りゅうじ</small> 細川 隆司 歯学科 口腔再建リハビリテーション学分野
	「第3の歯? インプラント治療の最前線」	
6	最近、テレビや雑誌などで取り上げられることの多い「インプラント治療」とはどのような治療なのかを分かりやすく説明します。さらに、九州歯科大学附属病院で行っている最新のインプラント治療についてもお話ししたいと思います。	<small>まさき ちひろ</small> 正木 千尋 歯学科 口腔再建リハビリテーション学分野

令和4年度 九州歯科大学 模擬講義一覧

	講義内容	講師
	「唾液のひみつ」	
7	お口の中の唾液について、多くの人はあまり深く考えたことがないと思います。ですが、唾液は体にとってたくさんの大事な仕事をしています。さらに唾液を作るためには様々な細胞が関わっています。この講義では、唾液についてわかりやすく説明したいと思っています。	<small>こんどう ゆうすけ</small> 近藤 祐介 <small>歯学科 口腔再建リハビリテーション学分野</small>
	「失った歯や歯肉に代わるものは何か？ 歯科材料は進化している！」	
8	歯や歯肉、さらには歯根を覆っている骨を失った場合、どのような方法で機能や見た目を取り戻すのでしょうか？一部で再生医療も取り入れられていますが、ほとんどの場合、歯科材料で補填をしてこれらを取り戻しています。再生医療のさらなる研究とともに、歯科材料の改善・新規歯科材料の開発も進めていく必要があります。現在、歯科医院・歯科技工所で大活躍している材料から最先端の歯科材料までご紹介します。	<small>ながまつ ゆき</small> 永松 有紀 <small>歯学科 生体材料学分野</small>
	「細胞がつくる人体の構造」	
9	人体は様々な細胞が集まって構成されています。いかに人体が精巧に作られているのかを、顕微鏡で見た臓器について解説します。	<small>せた ゆうじ</small> 瀬田 祐司 <small>歯学科 解剖学分野</small>
	「お口の中の細胞ってどのように見える」	
10	私たちの口の中は重層扁平上皮という粘膜上皮で覆われています。口腔がんなど様々な病気もこの上皮から変化をしていきます。歯間ブラシでこすると口の中の細胞は見るができます。また、こすった細胞から遺伝子を調べることも可能です。口の中の細胞と病気についてわかりやすく説明します。	<small>やだ なおみ</small> 矢田 直美 <small>歯学科 口腔病態病理学分野</small>
	「歯科医学で繰り上げられる連携研究」	
11	科学技術が常にアップデートされている現在の生命科学の研究では、様々な専門領域の研究者がジャンルを超えて、情報交換や共同研究を行うことが欠かせません。九州歯科大学でも、歯科疾患の病態を解明することや、新しい診断方法の開発、そして再生医療を含む治療への応用を目指して、多くの研究機関や企業とコラボレートした研究が進められています。ここではその一部をわかりやすく説明します。	<small>ありよし わたる</small> 有吉 渉 <small>歯学科 感染分子生物学分野</small>
	「口臭から全身の健康がわかるって本当？」	
12	原因や病態についてあまり知られていないのが現状です。そこで口臭の原因・検査法・治療の流れについてわかりやすく話すとともに侵襲性の少ない唾液やにおいなどの検体を用いた診断法についてもお話する予定です。	<small>あんさい としひろ</small> 安細 敏弘 <small>歯学科 地域健康開発歯学分野</small>

令和4年度 九州歯科大学 模擬講義一覧

	講義内容	講師
	「歯並びについて知ろう -いつ始めるの、どう直すの-」	
13	ひとことで歯並びが悪いといっても、様々な種類の不正咬合に分類されます。歯並びについての理解を深めるとともに不正咬合によってもたらされる問題点をわかりやすく解説します。さらに、いつ矯正治療を始めるのか？どうやって治療してゆくのか？を九州歯科大学附属病院で行われている最新の矯正治療にそくしてお話したいと思います。	川元 龍夫 歯学科 顎口腔機能矯正学分野
	「自然と生えない歯もあるんです。」	
14	子どもは成長するにつれて乳歯が生えて、永久歯に生え替わります。多くの高校生は既に永久歯が全て生えそろっているはずですが、稀に自然には生えてこられず、乳歯が残ったままだったり、乳歯は抜けたけれど永久歯が生えずに歯がないままになっている方もおられるかも知れません。この講義ではこのようなことが起こる理由や対処法を実際の治療の写真も交えてお話したいと思います。	郡司掛 香織 歯学科 顎口腔機能矯正学分野
	「その癖大丈夫？ -歯並びのお話-」	
15	歯並びに影響を与える要因に、指しゃぶりや、舌を出す癖があるのは知っていますか？ 歯の位置は、唇や舌などの外力の安定する場所に並びます。この講義では、口に関連する癖と歯並びの関係について、実際の写真もお見せしながらわかりやすくお伝えいたします。	黒石 加代子 歯学科 顎口腔機能矯正学分野
	「『歯科領域における放射線の利用と被ばく』と『九州歯科大学と歯科学の紹介』」	
16	歯科領域における放射線の利用と被ばくでは、医学の中で進歩が著しい放射線学の分野が医療にどのように応用されているのか、どの程度被ばくが生じ、人体に影響するのか等を説明します。九州歯科大学と歯科学の紹介では、九州歯科大学の紹介と本学を通して歯科学で学ぶこと及び卒業後どのような仕事を行っていくのかを説明します。	森本 泰宏 歯学科 歯科放射線学分野
	「放射線とは何か」	
17	放射線は一般に体に害をなすものという印象が強いです。その考えは正しい一方で、放射線が医療の世界で多用されていることも事実です。そこで、そもそも放射線とは何か、なぜ悪影響があるのか、また、なぜ有害なのに医療で役に立つのかについて説明したいと思います。	小田 昌史 歯学科 歯科放射線学分野
	「口の中にも癌はできます -口腔癌の予防と治療の最前線-」	
18	超高齢社会の日本では2人に1人が癌になり、3人に1人が癌で亡くなります。口の癌の頻度は高くはないですが、確実に増加しています。予防と早期発見が重要であることは当然ですが、治療にあたって顔の形という審美性と”食べる・話す・呼吸する”という複雑な機能をいかに温存し、良い治療成果を上げるかが大きな焦点です。癌の芽は実は若い年代にすでに発生しています。予防と治療の最前線を説明します。	富永 和宏 歯学科 顎顔面外科学分野

令和4年度 九州歯科大学 模擬講義一覧

	講義内容	講師
	「口腔科医としての歯科医師の役割」	
19	高齢化社会となった現在、口腔疾患と全身疾患とのつながりが明らかとなり、口腔内の疾患を全身疾患の一つとして治療する新しいタイプの歯科医師が求められています。そんな中、最近では歯医者さんのイメージを脱却した仕事をしている歯科医師もたくさんいます。本講義では最新の歯科医療の広がり、奥深さをお話します。	はぶ まなぶ 土生 学 〔 歯学科 顎顔面外科学分野 〕
	「口腔外科って？－骨粗鬆症治療薬と顎骨壊死－」	
20	口腔外科って何？我々はいろいろな疾患をみっていますが、歯科医がこんなことまでしていること知らない人、高校生は多いのでは？私はその中でも、骨粗鬆治療薬などの薬剤によって起こりうる薬剤関連顎骨壊死（Medication-Related Osteonecrosis of the Jaw: MRONJ）を中心とした口腔外科疾患について少しお話ししながら歯科医がこういったこともやってるのかと理解していただき、将来の選択肢の一つとして歯科医師を考えてもらえればと思います。	よし が だいご 吉賀 大午 〔 歯学科 口腔内科学分野 〕
	「これからの歯科医師 ～全身を診る歯科医師の必要性～」	
21	少子高齢化社会と言われるようになって、どのくらい経ったでしょうか。結果的に、歯科医院にも様々な疾患を抱えられた患者様が来院するようになってきました。高血圧症、心臓病、糖尿病、高脂血症、脳梗塞、認知症などよく耳にするものから、一度も聞いたことがないような疾患を持たれている患者様もいらっしゃいます。これは受ける側の歯科医師も、必然的に全身を診る目が必要になったことを意味します。本講義では、これからの歯科医師として、全身を診る歯科医師がどのように患者様を診察しているかをお話します。	はらの のぞむ 原野 望 〔 歯学科 歯科侵襲制御学分野 〕
	「虹が綺麗に見えることとむし歯の関係－ヒトの食性から見る齲蝕リスクー」	
22	むし歯の原因は糖を発酵する細菌がヒトの口腔内に感染して、食事を通じて摂取した糖が発酵されてできた酸が歯を脱灰し、この脱灰が不可逆的に進行することにより起きます。なぜヒトは糖を摂取するのか、ヒトの食に関する進化からむし歯のリスクを捉えて、歯科保健指導のあり方を考えます。	あきふさ すみお 秋房 住郎 〔 口腔保健学科 多職種連携推進ユニット 〕
	歯の病気、特に歯周病と糖尿病の関係	
23	2016年、糖尿病が疑われる成人の推計がついに1,000万人を突破しました。もしこの多くの人々の血糖値が高ければ、糖尿病の合併症で苦しむ人が増えることとなります。歯周病は歯の病気ですが、糖尿病があると歯周病に罹り易く、重症化するため、歯周病は糖尿病の第6番目の合併症といわれています。また逆に歯周病があると糖尿病になったり、血糖値が上がったりすることもわかってきました。歯周病と糖尿病はお互いに影響し合うのです。講演では、こういった糖尿病と歯周病の双方向の関係を解説したいと思います。	その き かずお 園木 一男 〔 口腔保健学科 多職種連携推進ユニット 〕
	「食べる事と表情のおいしい関係」	
24	日常的な食事や会話の営みには、栄養やコミュニケーション以外にも、その機能によって身体の健康を守る大切な役割があります。歯科衛生士は高齢者の肺炎を予防するために口の機能に働きかける仕事をしています。青年期の皆さんには、食物をかみ砕き飲み込めるようにする「そしゃく」と表情の関係を知って食事や会話を新鮮に感じていただきたいと思います。	なか みち あつこ 中道 敦子 〔 口腔保健学科 多職種連携推進ユニット 〕

令和4年度 九州歯科大学 模擬講義一覧

	講義内容	講師
	<p>「ヒトはどうやって飲んだり食べたりしているのだろう？ 食べられなくなったらどうすればいいのだろう？」</p>	
25	<p>私たちは毎日、何も気にすることなく、口から飲んだり食べたりすることができます。でも、実際にはどのように口から食物が運ばれ、のどを通り、食道を経て、胃に入っているのでしょうか？実際の飲み込み検査の動画などを見て頂き、わかりやすく説明します。また、脳卒中などの病気の後遺症で、食べたり飲んだりできなくなった患者さんへの摂食嚥下(食べたり飲んだりする)リハビリテーションについてもわかりやすく解説します。</p>	<p>藤井 航 ふじい わたる 口腔保健学科 多職種連携推進ユニット</p>
	<p>「あなたの食生活、それで大丈夫ですか？ ~口と身体の機能を健康に保つために~」</p>	
26	<p>高校生は、身体の発達や活動量が増加することから生涯を通して最も多くの栄養素を必要とする時期です。しかしながら、やせ願望、欠食・コ食・間食や夜食のとり方、生活リズムが不規則など様々な問題点が指摘されています。口と身体の健康を保つために一度あなたの食生活を見直してみませんか。</p>	<p>辻澤 利行 つじさわ としゆき 口腔保健学科 多職種連携推進ユニット</p>
	<p>「脳の不思議」</p>	
27	<p>どこで「見る」という問に対して、多くの人は「目」と答えますが、本当でしょうか。脳科学的には「目で見る」は間違いです。なぜなら、目を使わなくても「見る」でしょ、夢を。実は私たちは脳で見ているのです。講義では錯視や多義図形(かくし絵)などを使いながら、「脳で見る」を実感してもらいます。脳科学的には「歯が痛い」も間違いで「脳が痛い」、「口で食べる」も間違いで「脳で食べる」なのですよ。面白いでしょ。</p>	<p>吉野 賢一 よしの けんいち 共通基盤教育部門</p>